

社会科学学習指導案

指導者 澤 口 良 夫

1. 日 時 平成17年8月26日(金) 2校時
2. 学 級 3年2組 男子17名 女子16名 合計33名 北校舎2階3年2組教室
3. 単元名 第3章 現代の民主政治と社会 3 地方の政治と自治

4. 主題について

本単元は「地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識を育てる。」ことをねらいとしている。生徒は、前節で人間尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めたとともに、法の意義に着目させ、民主的な社会生活を営むためには法に基づく政治が大切であることを学習した。そこで、本単元では地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであること、そして、このような住民自治を基本とする地方自治の考え方が、地方公共団体の政治の仕組みや働きを貫いている基本的な考え方であることを学習する。2000年の地方分権一括法の施行により、地方分権の推進はいよいよ実施の段階となった。そして、市町村合併特例法の改正により、2002年以降、全国で約1500の市町村が合併に向けた協議会に新たに参加している。市町村合併特例法の期限が限られており、合併の是非や相手先を選ぶ住民投票も急増した。このように地域社会や自治体をとりまく環境が大きく変化しつつある中、まさに地方分権時代の望ましい自治体像を中学生なりに考えることができる教材となっている。

公民の学習に興味関心のある生徒が20名(64%)である。資料を活用して調べようとする意欲と能力は高いものがある。また、自分なりの考えをしっかりと書くことができる生徒が多い。しかし、日常的に新聞を見ている生徒は5名(16%)、政治を身近に感じている生徒が4名(12%)、盛岡市長の氏名を言える生徒が5名(16%)で、岩手県知事については3名(9%)であることから、授業での学習が日常生活には転移されていないと言える。

そこで、地方自治についてその考え方や仕組みについての理解を深めることは大切なことであり、本単元の学習を通して生徒の政治に対する関心を高めたい。そのためにも、市町村合併について考えさせることはタイムリーなことだと考える。さらに、住民の権利や義務について知ることで、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てたい。

5. 指導と評価の計画 (別紙)

6. 本時の達成目標

社会的事象への関心・意欲・態度	市町村合併について関心を深め、その背景を調べてまとめることに積極的に取り組むことができる。
社会的な思考・判断	市町村合併について、国、岩手県、盛岡市、玉山村、矢巾町のそれぞれの立場から多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめ発表することができる。
資料活用の技能・表現	各種の資料を活用しながら、市町村合併のねらいや背景、それぞれの自治体の考えについて整理することができる。
社会的事象についての知識・理解	市町村合併のねらいや盛岡市の合併についてまとめることができる。

7. 本時の指導の構想

(1) 指導構想及び留意点

政治は大人の話であり身近なものではないという意識のある生徒達に、「民主主義の学校」と呼ばれる地方自治について、盛岡市を題材として学習を進めることで、興味を持って学習に取り組み政治を身近なものとしてとらえることができるのではないかと考える。平成18年1月10日に玉山村と合併して新盛岡市が誕生することは、まさに自分達に直接関わることであり、タイムリーな題材である。

そこで、既に合併が決定し新しい市名となった市町を導入で扱い、生徒達の興味関心を喚起し課題意識を持たせたい。また、予想の段階で既習事項を生かした根拠のある予想をさせたい。そして、生徒一人ひとりが市町村合併について自分なりの考えを持てるよう思考の時間も十分確保したいと考える。盛岡市の場合、編入合併の編入先であることから、生徒達にとって合併することの切実感はないのではないかとと思われる。そこで、単に盛岡市の立場だけで考えるのではなく、編入合併する玉山村や合併を見送った矢巾町の立場で考えさせることが、この合併を多角的にとらえさせることになるのではないかと考える。

(2) かかわり合いを生かす手だてについて

導入段階で、新しく誕生する市や県内市町村合併状況地図等の資料を提示することで、題材に対して深く関わらせ本時の課題を生徒自身に作らせたい。そのことで、課題に対する必然性をつかませたい。また、予想の段階で内容課題に対する予想とともに課題を解決するための手だてについても考えさせたい。そして、合併に対する各々の考えを発表しあう場面を設定し、友達同士のかかわり合いを通して個々の思考を深めさせたい。

段階	過程	時間	学 習 活 動	評価の視点・方法	指導上の留意点	教材・教具等
展開	導入	10分	1 前時までの確認をする。 2 市町村合併の取組状況についてつかむ。 ・「洋野町」「奥州市」について ・岩手県内市町村合併の取組状況の地図 3 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> なぜ市町村合併をするのか、盛岡市を例に考えよう。 </div>		1 本時にかかわる既習の重要語句を確認することで、考える際によりどころとする。 2 岩手県内市町村の合併を取り上げ、身近な問題として必然性をつくる。 3 生徒個々に学習課題を作らせ、全体のものにする。	・紙板書 ・OHP 「合併状況地図」 ・学習シート
	課題追究	32分	4 予想する。 ・盛岡市に何かメリットがあるから ・盛岡市が財政難だから ・もっと規模の大きな都市にしたいから 5 盛岡市の合併について知る。 6 市町村合併について、盛岡市を例に考える。 ・盛岡市は大きな都市を目指しているのではないか。 ・玉山村は財政的に厳しいのではないか。 ・矢巾町は名前がなくなることがいやだったのではないか。 7 市町村合併が進む背景を知る。 8 「地方分権」という言葉について知る。	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 既習事項をもとに課題に対する予想を立てることができたか。 </div> 机間巡視・学習シートの記述 G1 複数の視点から予想している。 G2 財政面など一つの視点で予想している。 G3 前時までの学習シートをもとに、関連のある既習事項を探させる。	4 ここで全員に必ず予想させることで課題解決への必然性を持たせる。 D F 5 盛岡市の合併に関する流れについて教師から説明する。 6 よりどころとなる視点を確認しながら、3市町村のそれぞれの理由について考えさせる。それは、合併のメリット・デメリットについて考えることでもある。それらを意見交流させることにより、個々の考えを深めさせたい。 D F	・OHP 「合併の流れ」 ・資料プリント
終末	まとめ	8分	9 なぜ市町村合併をするのか、学習したことをもとにまとめる。 10 次時の見通しを持つ。		9 本時の学習内容のまとめだけでなく、友達の考えも含めたかわり合いを生かした感想も書かせたい。	

3 年 社会		単元(題材)名 地方の政治と自治		総時間 5時間扱い			
学習指導要領の指導事項 現代の民主政治とこれからの社会 イ 民主政治と政治参加							
単元の目標		主な学習活動		評価規準	社会的思考・判断	資料活用の技能・表現	
地方自治の基本的な考え方について、理解することができる。また、地方公共団体の政治の仕組みについて理解するとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を身につけることができる。		地方公共団体の仕事について調べる。 地方財政について調べ、盛岡市と他の地方公共団体とを比較し特徴をまとめる。 住民の政治参加がどのように行われているのか調べる。 市町村合併の背景と現状を調べる。 「まちづくり」を調べる。 身のまわりの政治をよくするために何ができるか考える。		B = 「おおむね満足できると判断される状況」	地方自治における議会制民主主義の基本的な考え方と、政治の仕組みなどの学習課題に対して、複数の視点から考え明確な根拠をもとに結論を引き出すことができる。	地方自治における議会制民主主義の基本的な考え方と、政治の仕組みなどの学習課題に対して、資料をもとにしながら、まとめたことを自分のことばで伝えることができる。	地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組みや地方自治の意義についての基本的な知識を説明することができる。
				A = 「十分満足できると判断できる状況」の例	地方自治における議会制民主主義の基本的な考え方と、政治の仕組みなどの学習課題に対して、的確な複数の視点から考え明確な根拠をもとに結論を引き出すことができる。	地方自治における議会制民主主義の基本的な考え方と、政治の仕組みなどの学習課題に対して、資料をもとにしながら、的確にまとめたことを自分のことばで伝えることができる。	地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組みや地方自治の意義についての知識が他の知識と関連づけられて、構造的に説明することができる。
				C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への手だての例	2つ以上の資料の相違点や共通点を見出させ、学習課題と関連づけさせて、まとめさせる。	資料を読みとらせ、問題点を見つけさせたり、その原因を探らせたりして、要点をまとめさせる。	教科書や資料集を調べさせたり、身近な例と関連づけて指摘させたりして理解させる。
次	時	主な達成目標	主な学習活動	社会的思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的思考・判断	
1	2	地方自治の意味と役割や地方自治の仕組みや住民参加の方法について理解することができる。	地方公共団体の仕事や地方財政について調べる。 住民の政治参加がどのように行われているのか調べる。	地方公共団体の仕事や財政について関心を持ち、進んで調べようとしている。		教科書や資料集などから適切な資料を選び、地方公共団体の仕事内容をまとめたり、地方財政の特色をまとめたりすることができる。	地方自治の仕組みや地方自治の意義についての知識を説明することができる。
	1 本時	市町村合併が進む理由を考え発表することができる。	市町村合併の背景と現状を調べる。		市町村合併のが進む理由について考えたり、合併せず自立を選んだ理由などを考えることができる。	市町村合併の背景と現状について、資料をもとにまとめることができる。	
2	2	身近な地域の「まちづくり」について調べ、身近な地域の政治をよくするために、何ができるのか考え発表することができる。	盛岡市で行っている特色あるまちづくりについて調べる。盛岡市政や岩手県政に期待することをまとめる。また、自分ができることについて考える。	身近な地域の特色ある政治について進んで調べたり、住民の一人としてそのあり方を考えようとしている。		まちづくりの課題について調査結果をまとめたり、提言をまとめたりする等の活動に取り組み、発表することができる。	